

スポーツ庁「2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」

JRFU

放課後ラグビープログラム 2019

指導のガイドライン

目次

はじめに	2
1. 放課後ラグビープログラムとは	3
1) 事業趣旨	3
2) 事業概要	3
3) 管理運営者	3
4) 過去 6 年間の活動	4
2. 放課後ラグビープログラムの指導について	7
1) 指導者の心得	7
2) 指導者の評価基準	8
3) 指導内容	8
①プレーの原則	8
②テクニック・スキルの指導	9
③フィジカルトレーニングの指導	9
④ラグビーのコアバリューの指導	10
4) 10 回の練習の組立	11
5) 一日の流れ	11
4. 事務的業務および運営方法について	12
1) 参加者の管理・運営について	12
2) トレーニングレポートの作成	12
3) 開催実施報告書の作成	12
4) 個人情報の管理徹底のお願い	12
5) 保険料の徴収のお願い	12
6) 欠席・遅刻の連絡について	13
7) 開催の判断（中止にする場合）	13
8) 怪我への対応および、怪我が起きた場合について	13
最後に	13

はじめに

この度は、放課後ラグビープログラムへのご協力ありがとうございます。2019年ラグビーワールドカップ日本開催の決定、2016年リオデジャネイロから男女とも7人制ラグビーが正式採用されたことを受け、日本のラグビー競技についての普及・競技力向上が必要とされています。それを踏まえ、スポーツ庁では、2012年度より、「2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」として、ラグビーの普及・振興への取り組みをしています。

放課後ラグビープログラムは、「2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」の一つの事業として、ラグビーの競技環境の少ない中学生、または、小学校の授業でタグラグビーに触れた子どもたちがラグビーをより深く学ぶ場として、平日・放課後にラグビーができる環境をモデル的に運用し、日本に新しいラグビー環境の創設のきっかけ作りをすることを目的としてスタートしました。現在は、様々な地域の方に教室を運営して頂き、知見を蓄積している段階です。将来的には、自主的に放課後のラグビー環境の創設に挑戦される方に、本事業で蓄積したノウハウを伝達していきたいと思っております。さらに、普及促進のための人材確保として、トップアスリートや選手OB人材の活用を行い、「人材の好循環」や「スポーツNPO育成」といった、スポーツの連携・協働にも取り組み、そのモデルを提示することも目的としております。

本事業は、(公財)日本ラグビーフットボール協会の普及育成部が事業主体者となって、2012年より、活動をスタートさせた事業です。過去の開催者の方々のご尽力のおかげで、2012年は1地域、2013年は3地域、2014年は5地域、2015年は9地域、2016年は12地域と事業を拡大してまいりました。放課後ラグビーのようなアカデミー形式のスポーツ環境の創設モデルは、ラグビーのみならず、多種目にも転用可能なシステムとしての期待もあり、スポーツ庁でも非常に高い評価を受けている事業です。

指導者の皆様には、現場での指導のみならず、トレーニングレポートの作成等、色々ご苦勞もあるかと思いますが、放課後ラグビープログラムの活動を通して、新しいラグビー環境の創設にご協力いただければ幸いです。

1、放課後ラグビープログラムとは

1) 事業趣旨

2019年ラグビーワールドカップ日本開催の決定、2016年リオデジャネイロから男女とも7人制ラグビーが正式採用されたことを受け、日本のラグビー競技についての普及・競技力向上が必要とされています。それを踏まえ、文部科学省では、2012年度より、「2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」として、ラグビーの普及・振興への取り組みをしています。

本事業は、「2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」として、ラグビーの競技環境の少ない中学生、または、小学校の授業でラグビーに触れた子どもたちがラグビーをより深く学ぶ場として、平日・放課後にラグビーができる環境をモデル的に運用し、日本に新しいラグビー環境の創設のきっかけ作りをすることを目的としています。また、今後、本モデルを参考に、自主的に放課後のラグビー環境の創設に挑戦される方にノウハウを伝達できるよう、様々なタイプでの開催モデルでの知見を蓄積することも本事業の目的の一つです。さらに、普及促進のための人材確保として、トップアスリートや選手OB人材の活用を行い、「人材の好循環」や「スポーツNPO育成」といった、スポーツの連携・協働にも取り組み、そのモデルを提示することも目的としております。

2) 事業概要

平日の放課後もラグビーが出来る環境を整備し、中学生等の競技者の拡大を図る。また、ラグビーを経験した小学生が、ラグビーへ移行するための受け皿にもなることも目指す。

事業名称 : 「放課後ラグビープログラム モデル事業」 (モデルづくり事業)

事業主催 : スポーツ庁

対象 : 小学6年生～中学生(会場により小学5年生も可)

方法 : 平日開催のラグビー教室を新設し、平日放課後とした参加者を募り環境整備に向けたモデルクラブを試験的に運営する。

要件 : ラグビー協会よりモデル地域を策定し拠点校指定/ラグビー協会より指導プログラム、指導者を認定/拠点校に管理者、指導者を配置

期間 : 2019年9月～(全10回)

事業形態 : 事業の主体者は(公財)日本ラグビーフットボール協会が行う。一部、管理業務・指導者派遣等の再委託を行う。

3) 管理運用者

・事業管理者

(公財)日本ラグビーフットボール協会

事務局 普及育成委員会 /担当 永井 中村

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35 秩父宮ラグビー場クラブハウス内

電話 : 03-3401-3289 / ファックス : 03-5775-5034

4) 過去5年間の取り組み

2012年より神奈川県でモデル事業が開始され、参加者の満足度の高い結果を得ることができました。2013年は前年度の成功を受け、神奈川県、滋賀県、沖縄県と3地域で開催され、様々なモデルケースでの可能性及び、今後の事業展開への知見を得ることができました。また、モデル事業後に自主運営をスタートした地域もあり、本事業の新たな可能性を見出すこともできました。2014年はラグビー人口の少ない地域や、トップリーグのチームにもご協力頂き、5地域で開催されました。またプログラム終了後に、自主運営に挑戦して下さる可能性も含めた開催地の選定を行いました。結果、5クラス中2クラスが自主運営にチャレンジして下さる運びとなりました。また、トップリーグのチームが協力して下さったことで、放課後ラグビープログラムの知名度が高まり、全国的に本事業への関心が高まるとともに、本事業を模倣したアカデミーが多くはじまりました。2015年度はさらに開催地を増やし、2016年からは2019年ラグビーワールドカップの開催地にターゲットを絞り、開催都市でのラグビーへの機運醸成にも寄与する役割も果たすことが出来ました。

■2012年度

非営利活動法人タイプ：神奈川県（協力：NPO 法人ラグビーパークジャパン）

■2013年度

教育機関タイプ：滋賀県（協力：立命館大学）

地域ラグビー協会タイプ：沖縄県（沖縄県ラグビー協会）

非営利活動法人タイプ：神奈川県（協力：NPO 法人ラグビーパークジャパン）

■2014年度

トップリーグ&リソースコーチ連携タイプ：東京都（リコーブラックラムズ）

トップリーグタイプ：群馬県（パナソニックワイルドナイツ）

教育機関タイプ：滋賀県（協力：びわこ学院大学）

教育機関タイプ：福岡県（協力：九州共立大学）

地域ラグビー協会タイプ：徳島県（協力：徳島県ラグビー協会）

■2015年度

トップリーグタイプ：東京都（リコーブラックラムズ）

トップリーグ&リソースコーチ連携タイプ：東京都（キヤノンイーグルズ）

トップリーグ&リソースコーチ連携タイプ：大阪府（近鉄ライナーズ）

教育機関タイプ：滋賀県（協力：びわこ学院大学）

教育機関タイプ：福岡県（協力：福岡大学）

教育機関タイプ：福岡県（協力：日本文理大学）

教育機関タイプ：埼玉県（協力：立正大学）

地域ラグビー協会タイプ：静岡県（協力：静岡県ラグビー協会）

非営利活動法人タイプ：群馬県（協力：NPO 法人ワイルドナイツスポーツプロモーション）

■2016 年度

北海道札幌市クラス	協力団体：北海道ラグビーフットボール協会
岩手県釜石市クラス	協力団体：釜石シーウェイブス RFC
東京都世田谷区クラス	協力団体：リコーブラックラムズ
神奈川県横浜市クラス	協力団体：関東学院大学ラグビー部
埼玉県熊谷市クラス	協力団体：立正大学ラグビー部
埼玉県狭山市クラス	協力団体：セコムラグビー部
静岡県静岡市クラス	協力団体：静岡県ラグビーフットボール協会
兵庫県神戸市クラス	協力団体：JR 西日本ラグビー部
愛知県豊田市クラス	協力団体：トヨタ自動車ヴェルブリッツ
大阪府東大阪市クラス	協力団体： areaH
福岡県福岡市クラス	協力団体：福岡大学ラグビー部
大分県別府市クラス	協力団体：立命館アジア太平洋大学

■2017 年度

北海道札幌市クラス	協力団体：北海道ラグビーフットボール協会
岩手県釜石市クラス	協力団体：釜石シーウェイブス RFC
東京都世田谷区クラス	協力団体：リコーブラックラムズ
東京都日野市クラス	協力団体：日野レッドドルフィンズ
神奈川県横浜市クラス	協力団体：関東学院大学ラグビー部
埼玉県熊谷市クラス	協力団体：立正大学ラグビー部
埼玉県狭山市クラス	協力団体：セコムラグビー部
静岡県静岡市クラス	協力団体：静岡県ラグビーフットボール協会
兵庫県神戸市クラス	協力団体：神戸親和女子大学
愛知県豊田市クラス	協力団体：トヨタ自動車ヴェルブリッツ
大阪府東大阪市クラス	協力団体： areaH
福岡県福岡市クラス	協力団体：福岡大学ラグビー部

■2018 年度

北海道札幌市クラス	協力団体：北海道ラグビーフットボール協会
岩手県釜石市クラス	協力団体：釜石シーウェイブス RFC
東京都世田谷区クラス	協力団体：リコーブラックラムズ
東京都日野市クラス	協力団体：日野レッドドルフィンズ
神奈川県横浜市クラス	協力団体：関東学院大学ラグビー部
埼玉県熊谷市クラス	協力団体：立正大学ラグビー部
埼玉県狭山市クラス	協力団体：セコムラグビー部
静岡県静岡市クラス	協力団体：静岡県ラグビーフットボール協会
兵庫県神戸市クラス	協力団体：神戸親和女子大学

愛知県豊田市クラス 協力団体：トヨタ自動車ヴェルブリッツ
大阪府東大阪市クラス 協力団体： areaH
大分県臼杵市クラス 協力団体：大分県ラグビーフットボール協会
熊本県玉名市クラス 協力団体：熊本県ラグビーフットボール協会
福岡県福岡市クラス 協力団体：福岡大学ラグビー部

2、放課後ラグビープログラムの指導について

1) 指導者の心構え

放課後ラグビープログラムの指導者は、チーム活動の指導者と異なり、集団としての成果よりも、個人の成長を応援することが求められます。また、チームに所属している参加者については、チーム活動と放課後ラグビーとの活動を上手に活用できるような指導者側の配慮も必要となります。下記の放課後ラグビーを行う上での留意点となりますので参考にして下さい。

放課後ラグビープログラムに関わる指導者の心構えをしっかりとチェック (☑) して下さい。

- 指導者はチームとしての成長ではなく、それぞれの参加者個人の成長をサポートすることを目的とする。
- 当プログラムでは、他チームの参加者、または、他学年の参加者などと一緒にラグビーを学んでいく。よって、指導者は、参加者同士の円滑な人間関係づくりを支援する。
- 参加者たちが、臆することなく自分の考えたプレーをトライ&エラーできる環境を与える。
- 参加者一人一人の安全と健康を第一に考える。
(トレーニングメニューの工夫や、怪我が起きた時の迅速な対応。)
- 指導者と参加者の信頼関係を指導の基盤とする。その為には、まずは、ラグビーを教えることよりも、人間関係を構築する事に全力を注ぐ。
- 参加者一人一人の特性・個性を捉え、それぞれに合わせた個別の対応に努める。
- 参加者が内発的なモチベーションによってトレーニングに参加できるようにレッスンを工夫する。
- 参加者に、新鮮、かつ有用なトレーニング機会を提供することで、ラグビーへの興味・関心、継続への意欲、向上心等をさらに喚起することを目的とする。

チーム活動に参加している参加者への指導者の心構え

- 地域スクールとの良好な関係性の構築を目指す。
- 参加者たちの主体となる場所は所属チームであり、怪我等で所属チームの練習や、試合に参加できないことがないように、最善の注意を払う。
- 放課後ラグビープログラムの指導者が参加者たちの前で地域スクールの指導方法や戦略、戦術を批判したりすることは断じてならない。なぜならば、それによって混乱するのは参加者たちであるからである。
- 指導に際して、地域スクールと放課後プログラムの指導で相違がある場合は、地域スクールの指導を否定するのではなく、両方の手段を持ち得ることが参加者たちの将来にとっては有益であることを伝え、参加者たちが混乱しないような言葉がけをする。
- 参加者は所属チームの戦術・戦略がある。放課後ラグビープログラムでは、戦略、戦術に関わる分野の指導ではなく、参加者個人の成長を支援する。
- ラグビースクールでは試合もあり、戦略・戦術の中でプレーに制限がある場合もある。参加者たちには、所属チームの戦略・戦術の中で、放課後ラグビープログラムで身につけたテクニックやスキルを発揮することの重要性を理解させる。

2) 指導の評価基準

- 参加者たちが内発的なモチベーションによって各トレーニングに取り組んでいたか。
- 終了時、参加者たちは時間が経つのを早いと感じ、もっとやりたいと感じているように見えたか。
- 参加者それぞれにフィジカル、スキル、テクニク等の向上が見られたか。
- 参加者たちが、自分と異なる他者（他チーム）を受け入れ、集団として活動する上での規律の大切を理解、実践できていたか。
- 指導者と参加者で、気軽に自分のプレーの悩みなどを相談できる人間関係を構築できたか。

3) 指導内容

放課後ラグビープログラムでは、チームの戦略、戦術に関わる分野の指導ではなく、参加者個人の成長を支援することを目指して下さい。よって、指導内容は、大きく下記の4つの事柄があります。

プレーの原則（ゲームを通して指導する）

フィジカルトレーニング（年代別の特徴に即した体力作り）

スキル、テクニクトレーニング

ラグビーのコアバリューへの指導（「品位」「尊重」「情熱」「規律」「結束」）

①プレーの原則

放課後ラグビープログラムでは、まずは、世界共通のプレーの原則を踏まえて指導することが大きなテーマになります。プレーの原則は、戦略、戦術よりも大きな概念ですから、様々なチームから参加者が集まる放課後ラグビープログラムの中でも指導可能なこととなります。放課後ラグビープログラムでは、FW/BKと言ったコニットでの考えではなく、まずは、すべての参加者が、プレーの原則を理解し、それを実践できるように指導して下さい。毎回のレッスンでも、プレーの原則のテーマを設定しながら、伝えながら進めて下さい。また、日本のラグビー指導の課題として、ゲーム形式での練習の少なさがあげられています。放課後ラグビープログラムの活動を通して、日本のラグビー指導の向上にもご協力下さい。よって、毎回の練習の最後の30分は、全クラス共通の練習として、タッチゲームを導入して下さい。



② テクニック ・ スキルの指導

10回のレッスンでは、それぞれのクラスで毎回、テーマを決めて進めていきます。内容については、昨年度の放課後ラグビープログラムのレポートを参考にして下さい。また、WORLD RUGBYのテクニクのキーファクターをまとめた資料もお送りしますので、そちらも参考して下さい。

ただ、テクニクは判断を伴ったスキルとして行えなければ意味がありません。判断を伴った様々なゲームによって、テクニクをスキルとして発揮できるような指導を心がけて下さい。選択するテクニク・スキル、またメニュー等については、各クラスの判断にお任せします。

■コンタクトの指導

ラグビーの指導においてコンタクトが大事であることは言うまでもありません。ただ、コンタクトの指導については、ハンドリングやランニングの指導と異なり、安全の確保が大事になります。放課後ラグビープログラムは、様々な環境から参加者が集まってきます。それもあり、指導者が、参加者個人の健康状態を正確に把握することができません。学校の部活動終了後の参加、学校の行事後の参加など、体力的に消耗した状態の参加者もいます。放課後ラグビープログラムでは、これら点を踏まえ、フルコンタクトでの対人での練習やゲームは行わないで下さい。まずは、安全を最優先し、指導内容をご検討下さい。

タックル・・・・・・・・・・コンタクトバック・タックルバック
ブレイクダウン・・・・・・・・・・コンタクトバック・タックルバック
ゲーム・・・・・・・・・・タッチ（簡易ラグビー）

③フィジカルトレーニングの指導

ラグビーのトレーニング領域は下記の資料にあるように様々な要素が求められます。また、アスリートとしての能力の基礎となるファンダメンタルムーブメントスキル（基礎運動の技術）と、そのさらに基盤となるフィジカルリテラシー（身体的教養）を向上させるためのトレーニングも重要です。

ファンダメンタルムーブメントスキルやフィジカルリテラシーが能力が不十分であると、プレーヤーとしての成長を妨げるだけでなく、傷害リスクも高まります。つまり、中学生期以降に行うハイインテンシティー（高強度）なトレーニングを効果的、安全に実施することができなくなってしまうのです。よりハイインテンシティー（高強度）なトレーニングを行うためには、まずは、育成世代において、それぞれのトレーニング領域におけるフィジカルリテラシーとファンダメンタルムーブメントスキルを正しく修得することが優先課題となります。

また、中学生の年代はエンデュランスと言われる持久系のトレーニングにアプローチすることが発育発達の観点から見て効果的であると言われていています。

放課後ラグビープログラムでは、各指導者の判断で、上記の点をふまえてトレーニング行って下さい。持久力へのアプローチに関しては、ただ、クランドを走らせるのではなく、タッチフットのゲームを真剣に行うことで能力の向上を目指して下さい。具体的なトレーニングとしては、ファンクショナルストレッチと言われる機能的に体を動かせるようになる為の動作や、ランニングスキル、レスリングトレ

ーニング、ラダートレーニング、体幹等のトレーニング、ファンを含んだ各種ゲーム等、各クラスの判断で楽しく基礎体力を向上させるフィジカルトレーニングを行って下さい。アプローチの方法は、色々あると思いますので、昨年のレポートを参考に実施して頂ければと思います。

<p>■ラグビー&CTトレーニング領域</p> <p>□フィジカルリテラシー (スタビリティ、モビリティ、コーディネーション)</p> <p>□ストレンクス(筋肥大、最大筋力)</p> <p>□パワー(爆発的筋力、スピード筋力、反射筋力)</p> <p>□スピード(加速力、トップスピード)</p> <p>□アジリティ(敏捷性)</p> <p>□エンデュランス(有酸素持久力、無酸素持久力)</p> <p style="text-align: right;">IRB Talent Optimization Program資料</p>	<p>フィジカルリテラシーとファンダメンタルムーブメント</p> <p>＜フィジカルリテラシー＞ スタビリティ(関節の安定性) モビリティ(関節の可動性) コーディネーション(協調性)</p> <p>＜ファンダメンタルムーブメントスキル＞ 走る/止まる 跳ぶ 投げる/捕る 蹴る</p>
--	--

④ ラグビーのコアバリューの指導

ラグビーを指導する以上、ラグビーコアバリューは忘れてはならない指導です。特に放課後ラグビープログラムは、日頃はライバルチームの参加者達が混在します。チームと言う枠を越え、もっと大きなラグビーの仲間という枠の中でも、ラグビーのコアバリューを実践できるか、ここは参加者にとっても大きなチャレンジです。ぜひ、そのチャレンジをサポートしてあげて下さい。

The infographic features a blue and green color scheme with the IRB logo in the top right corner. It lists six core values, each with a small image and a descriptive text box:

- 品位 (INTEGRITY)**: 品位とはゲームの核をなすものであり、誠実さとフェアプレーによって生み出される。
- 情熱 (PASSION)**: ラグビーに関わる人々は、ゲームに対する情熱的な熱意を持っている。ラグビーは、興奮と愛着心を呼び、世界中のラグビーファミリーとの一体感を生む。
- 結束 (SOLIDARITY)**: ラグビーは、生涯続く友情、絆、チームワーク、および、文化的、地理的、政治的、宗教的な相違を超える忠誠心につながる、一つにまとまった精神をもたらす。
- 規律 (DISCIPLINE)**: 規律は、ゲームに不可欠なものであり、フィールドの内と外の両方において、競技規則、競技に関する規定およびラグビーのコアバリューの順守を通じて示される。
- 尊重 (RESPECT)**: チームメイト、マッチオフィシャル、および、ゲームに参加する人を尊重することは、最も重要である。

4) 10回の練習の組立

2014年度の東京クラスの12回の練習計画です。東京クラスは中学生の経験者が多く参加していました。クラスによって、参加者のレベルや年齢構成も様々ですので、内容については、各クラスの判断にお任せします。また、例年、小学6年生と中学生が混在するクラスや、経験者と未経験者が混在するクラスは、練習を分けたりなども工夫も必要となります。

参考例

	大きなテーマ	プレーの原則	テクニック	スキル	ゲーム
第1回	アイスブレイク・参加者の能力の把握	前進	ボールの持ち方	1対1	4対4
第2回	プレーの原則の理解	前進	ステップ	1対1	4対4
第3回	仲間との協力	前進	キャッチ&パス	2対1	4対4
第4回	コミュニケーション	前進	スピンパス	3対2/2対1	4対4
第5回	キック	前進	キックキャッチ&キック	3対2/2対1	4対4
第6回	サポート	前進・支援	サポートコース	3対2/2対1	6対6
第7回	タックル	全て	タックル	3対2/2対2	6対6
第8回	ブレイクダウン	全て	ブレイクダウン	3対2/2対3	6対6
第9回	ノーオーバーラップ	全て	カットイン・アウト	3対3/2対2	7対7
第10回	まとめ	全て	全て		7対7

3) 一日の流れ

下記は、一回の練習のタイムスケジュールになります。参考になさってください。

時間	18:00-20:00 クラスの場合
17:30	コーチ集合・MTG
18:00	練習時間
19:30	
20:00	参加者は着替えを終えて完全撤退
20:30	コーチ片付け・振り返り・次回のプラン

4. 事務的業務および運営方法について

1) 参加者の管理・運営について

生徒募集、生徒管理（保険加入等）、お問い合わせ窓口等は、放課後ラグビープログラム事務局にて行います。通常のお問い合わせについては、事務局で対応しますが、当日、参加者が現場の指導者に連絡を取りたい場合も発生します。その際は、ご対応のほど、よろしくお願いたします。参加者名簿については、事務局と指導者の皆さんで Google のドライブを共有し、管理・運営を行います。定員に満たない場合は募集を継続しますので、その際は、事務局で Google のドライブを更新して行きます。名簿を作成する際は、Google ドライブからデータをダウンロードして各自で作成して下さい。

2) トレーニングレポートの作成

レッスンごとに、トレーニングレポート 800 字程度と写真 4 枚程を 4 日以内に事務局までご送付下さい。毎週、レッスンが続いて行きますので遅れないようお願い致します。内容については、過年度のものを参考にして下さい。ここで蓄積されるレポートが日本ラグビーの大きな財産となります。

3) 開催実施報告書について

トレーニングレポートとは別に開催実施報告書の作成もお願い致します。開催実施報告書は、Google ドライブに各クラスのパイルに、ご記入下さい。また、同じパイルの中には出席簿もあります。出欠席の記入もお願い致します。

4) 個人情報の管理徹底のお願い

名簿のデータには、参加者の個人情報が掲載されています。名簿を持ち歩く際などは、紛失等にはくれぐれもご注意下さい。また、本事業で知り得た個人情報を、他の事業に活用することは禁じられています。

5) 保険料の徴収のお願い

1 回目の練習の際に、参加者が保険代として 800 円を持参します。全員の保険代金が集まった時点で、事務局まで送金をお願いいたします。（保険については、事務局で立て替えて、事前に加入します。）

6) 欠席・遅刻の連絡について

欠席・遅刻の連絡については、参加者がホームページより連絡するシステムになっております。参加者が情報を入力すると、指導者の方の携帯メールに情報が転送されます。運営事務局に電話がかかってきた場合は、事務局より、指導者の方にご連絡します。保護者の方には、無断欠席者をしないようお願いしていますが、例年、そのようなケースも発生します。連絡のない欠席者に、現場サイドから連絡する必要はありません。

7) 開催の判断（中止にする場合）

基本的には雨天開催をお願い致します。中止の基準は、雷、もしくは、交通機関に支障をきたすような悪天候という基準をお願い致します。小雨で中止にしてしまいますと、ほとんどの練習が中止となる可能性もあります。例年、雨の中でも開催していますが、参加者たちは楽しんで練習します。室内施設が利用可能なクラスは、室内練習やミーティング等に変更して頂いても構いません。

※中止にする場合

中止のする場合は当日の 14 時 45 分までに事務局までご連絡をお願い致します。WEB の開催情報のところに中止のお知らせを出します。もし、直前になって中止にする場合は、参加者は会場に向かってしまいますので、現地で待機し、集合後に参加者に中止であることを伝えて下さい。

※参加者の保護者の方にも開催情報の確認方法は伝えてありますが、現場でも、開催が疑わしい天候の場合は開催情報を確認するように参加者に伝えて下さい。中止のアナウンスが出ていない場合は開催されます。

8) 怪我への対応および怪我が起きた場合について

救急搬送が必要な怪我が起きた場合や、帰宅が困難な怪我が起きた場合は、怪我人のケアを最優先にしながら、名簿にある参加者の緊急連絡先に連絡し、怪我の状況を保護者に伝えて下さい。また、それと同時に事務局にもご連絡下さい。通院・入院が必要な怪我の場合は、事務局より、参加者の保護者に連絡し、保険の手続きを進めます。救急搬送が必要な怪我が起き、他の参加者への指導が困難になった場合は練習を中止して下さい。怪我人への対応を最優先して下さい。

その他の対応

- ・スポーツ施設の AED の場所を確認して置いて下さい。
- ・救急搬送をするかどうか迷うときは、ためらわずに搬送して下さい。

最後に

具体的な練習メニューについては参加者の状況に応じて、各クラスの指導者の判断で進めて下さい。今回、お伝えした内容、あくまでも参考資料です。まずは、参加者が、チームの枠を越えて交流を深め、楽しくラグビーを学ぶことができたかどうかが一番大切なことです。参加者および指導者の皆さんにとって有意義な活動になるよう祈願しております。

発行：公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

編集・作成：一般社団法人ラグビーパークジャパン

●本誌掲載レポートの写真、図表、文章の無断転載を禁じます。

●発効日：2019年4月20日